

国総研砂防研究室現地調査報告

調査地：宮城県石巻市、女川町

実施日：平成 23 年（2011 年）4 月 8 日（金）

調査者：砂防研究室 小山内室長、富田主研、鈴木研究官、林研究官、佐藤部外研究員

①女川町堀切山地区

特定斜面利用事業により整備された斜面上部平坦面（EL16m）に町立病院と老人福祉センターがある。



堀切山地区全景（3月18日へり調査撮影）



老人福祉センター1階には、痕跡から 3m 弱の津波による浸水があったと推測される。



斜面上部のフェンス、生垣にゴミが引っ掛かっているものの、がれきの散乱は見られないことから、津波が台地面に乗った際には流速がそれほど大きくなかったことが推測される。



堀切山南側斜面の法枠

- ・津波によってストーンガードが斜面方向に倒れているが、法枠の構造上は問題ないと思われる。
- ・法枠の中の 吹き付け基材の剥離が多く見られたが、ラス張りの損傷はほとんど見られなかった。

②女川町川尻地区



津波によると思われる法枠の脚部洗掘が見られる。法枠の目地に沿って、法枠全体に縦方向に亀裂が入っている。(写真内、左右2か所)



法枠の右斜面において、崩壊が見られた。

③石巻市吉野町地区



治山事業による法枠の右斜面での崩落
斜面下の人家の住人によると 4 月 7 日の地震でも崩落があったとのこと。



擁壁工に施工目地を挟んで、地震の影響と見られる 3 cm 程度の縦ズレが発生している箇所があった。

以上